

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

3月

■パン製造

県給食会と新年度の工賃の改定交渉を行なったが、パンについては微増。米飯については前年度の据え置きとなった。

■味噌製造

昨年事故米事件以降、原材料の調達に支障をきたしている。また、原材料価格の引き上げも経営の圧迫要因となっている。

■麺類製造

米粉使用の麺が注目され、現在、商品開発の議論が盛んであるが、問題は小麦粉より高い米粉を使っている消費者に支持される商品ができるかどうかである。

■シャツ製造

ジワリジワリと悪化していたものが、この3月で今まで以上に悪化している。商品の企画・製造・販売を垂直統合させたSPA型の会社が3月で倒産した。

■製材

商品の入荷が減少し、売上げに影響している。さらに長期在庫となつている委託材の販売促進を実

施したが、思うようには販売できなかった。

■印刷

3月も売上高はまだまだ模様。世界的な景気後退で需要が大幅に冷え込み、製造業・非製造業のすべての産業で景況が大きく悪化している。これを受けて印刷の需要も業種により大幅に減少しているが、一部の民需や官公需は年度末の仕事が活発に動いた。用紙や資材の動きも大変活発との話が久しぶりに聞かえる。

■生コン製造

極めて低調。来年度見通しもさらに悪化が予測される。

■電気鍍金

中小企業緊急雇用安定助成金の申請企業が多くなつてきている。

■鉄工

受注減少が組合員全般に及んできている。そのため多くの企業が操業短縮を余儀なくされている。

■機械部品製造

受注の激減で生産調整、雇用調整、休暇処置、人員調整に苦慮し、財務状況が心配である。

■採石

羽田D滑走路関連の工事では岩ズリの需要が来年の2月まで見込

まれるが、3月は前月より落ちて

■山砂採取

一時中断していた山砂の搬入が2月より再開し、5月の連休明けから本格化して、21年度内に終了する予定である。

■食肉卸売

飼料が安くなったが、2年前の価格よりは高いので生産者にとっては安いとはいえない状況にある。生産者の経営が安定していないため、業界としても困っている。

■建築材料卸

工事物件が払底状態。極端な落ち込みが続くが、まだ底が見えず、連鎖倒産の懸念が広がっている。

■小売

顧客の購買意欲の低下が顕著な中、気温も低く推移し、春物衣料を中心に売上げはかなり悪い。

■電気機器小売

デジタル放送関連機器が好調だが、後継者難から廃業に繋がるケースが多い。さらに、大型量販店の価格攻勢に苦慮している。

■小売

少しずつ好転の兆し。但し、顧客の徹底した低価格志向は変わらず資金繰りはかなり厳しい。

■中古車販売

相場弱含み観測。険しさと興味が交錯しており、ディーラーの対応がカギである。

■小売

空き店舗対策・組合員の資金繰りが課題。

■小売

定額給付金の支給時期が遅くなり、自社でのプレミアム付きギフト券販売を実施(盛況であった)。

■小売

依然として消費低迷から脱しきれず、売上げ不振に苦しんでいる。

■農業機械販売整備

不景気の中で新品の農機需要は簡単には増加しないが、中古修理部門は上昇。

■自動車・自転車小売

新学期等を迎え、自転車の売上げは上昇しているようだが、昨年と比べると販売台数は減っている。

■小売・サービス

国の給付金、習志野市のプレミアム商品券の発行に期待したい。

■小売・サービス

どうにもならないほど悪い。

■建設揚重

建設関係は不況。現在は仕掛り物件で稼働しているが、先行きが不安。

■自動車一般整備

景況は大変厳しく钣金部門は激減している。年度末を控えて、脱退する組合員が増えている。

■旅館

4月以降が問題。

■一般廃棄物処理

引越しの時期なので前月比で仕事量は増えているが、前年同月比では4分の1程度に減っている。

■土木建築サービス

大変厳しい状況にあるが、新年度事業の発注待ちである。緊急経済対策による公共事業費の大幅な増額を期待している。

■ソフトウエア

日々悪化している。

■貨物運送

3月に入り、物流量は増加の気配があるものの、過去の水準にはほど遠いと思う。

■小売

昨年12月に比べると、1月以降売上げが3分の2以下まで減少している会社が少なくない。この状況が続くと今年秋には更なる倒産企業が出るのではないかと心配。

■建設

組合としては総会に向けた決算と新年度の事業計画案の作成時期になったが、予算も大きく縮小したのものになるかもしれない。